

四半期報告書

(第28期第2四半期)

自 平成28年6月21日

至 平成28年9月20日

株式会社アジュバンコスメジャパン

神戸市中央区下山手通五丁目5番5号

(E27016)

目 次

	頁
表 紙	1
第一部 企業情報	
第1 企業の概況	
1 主要な経営指標等の推移	2
2 事業の内容	3
第2 事業の状況	
1 事業等のリスク	4
2 経営上の重要な契約等	4
3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	5
第3 提出会社の状況	
1 株式等の状況	
(1) 株式の総数等	8
(2) 新株予約権等の状況	8
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	8
(4) ライツプランの内容	8
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	8
(6) 大株主の状況	9
(7) 議決権の状況	10
2 役員の状況	10
第4 経理の状況	11
1 四半期連結財務諸表	
(1) 四半期連結貸借対照表	12
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	14
四半期連結損益計算書	14
四半期連結包括利益計算書	15
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	16
2 その他	19
第二部 提出会社の保証会社等の情報	20

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成28年10月28日
【四半期会計期間】	第28期第2四半期（自 平成28年6月21日 至 平成28年9月20日）
【会社名】	株式会社アジュバンコスメジャパン
【英訳名】	A D J U V A N T C O S M E J A P A N C O . , L T D .
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 松井 健二
【本店の所在の場所】	神戸市中央区下山手通五丁目5番5号
【電話番号】	078(351)3100（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部本部長 中川 秀男
【最寄りの連絡場所】	神戸市中央区下山手通五丁目5番5号
【電話番号】	078(351)3136
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部本部長 中川 秀男
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第27期 第2四半期連結 累計期間	第28期 第2四半期連結 累計期間	第27期
会計期間	自 平成27年3月21日 至 平成27年9月20日	自 平成28年3月21日 至 平成28年9月20日	自 平成27年3月21日 至 平成28年3月20日
売上高 (千円)	2,184,585	2,253,836	4,401,169
経常利益 (千円)	425,292	275,926	707,135
親会社株主に帰属する四半期（当期）純利益 (千円)	249,964	217,025	266,096
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	241,882	192,356	256,278
純資産額 (千円)	4,379,896	4,398,450	4,441,474
総資産額 (千円)	5,448,646	5,615,905	5,500,667
1株当たり四半期（当期）純利益金額 (円)	31.82	25.43	33.83
潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額 (円)	31.44	27.20	33.44
自己資本比率 (%)	80.4	78.3	80.7
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	225,322	△12,856	562,608
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	32,078	△166,614	△41,685
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	△191,717	△272,683	△147,737
現金及び現金同等物の四半期末（期末）残高 (千円)	2,159,766	1,989,320	2,467,868

回次	第27期 第2四半期 連結会計期間	第28期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成27年6月21日 至 平成27年9月20日	自 平成28年6月21日 至 平成28年9月20日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	12.91	8.79

(注) 1. 当社は、四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成25年9月13日）等を適用し、第1四半期連結累計期間より、「四半期（当期）純利益」を「親会社株主に帰属する四半期（当期）純利益」としております。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

なお、当社の連結子会社であったイノベーション・アカデミー株式会社は、平成28年3月21日付で当社を存続会社とする吸収合併により消滅したため、第1四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しております。

また、平成28年6月1日付でエクシードシステム株式会社の株式を取得して、同社を子会社としたため、第1四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて、重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

なお、第1四半期連結累計期間より、「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成25年9月13日）等を適用し、「四半期純利益」を「親会社株主に帰属する四半期純利益」としております。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善は続いておりますが、個人消費の改善につきましては、足踏み状況が見られております。一方、英国のEU離脱問題による海外経済の不確実性の高まりなど、依然として先行き不透明な状況が続いております。美容業界におきましては、顧客単価の下落、来店サイクルの長期化等、サロン※注1経営において厳しい環境が続いており、当社商品を販売するA・C・Sサロン※注2においても同様の影響がありました。

このような状況のもと、当社グループは、営業方針を「顧客の創造・顧客の固定化」「カウンセリングの徹底」「知識・技術習得の強化」「年間販促計画（キャンペーン）の活用推進」として掲げ、サロンの安定した経営サポートを目指しながら、既存主力商品の拡充に注力いたしました。

近年より取り組んでおります非正規流通取引先※注3との契約解除の影響はありますが、第1四半期連結累計期間より、エクシードシステム株式会社を新たに子会社化したことにより、売上高は増加いたしました。

なお、A・C・Sサロン登録軒数につきましては、当第2四半期連結会計期間末で7,397軒（前期末比200軒増）となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は2,253百万円（前年同期比3.2%増）となりました。人件費の増加や研究所の本稼働による研究開発費の増加により利益面では、営業利益280百万円（前年同期比22.4%減）、前年同期の保険解約返戻金及び受取補償金計上の影響により経常利益275百万円（前年同期比35.1%減）となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は217百万円（前年同期比13.2%減）となりました。

区分別売上高は、売上割戻金を含めて次のとおりであります。

区分	前第2四半期連結累計期間		当第2四半期連結累計期間		増減額 金額（百万円）	増減率 （%）
	金額（百万円）	構成比（%）	金額（百万円）	構成比（%）		
スキンケア	1,017	46.6	978	43.4	△39	△3.8
ヘアケア	1,209	55.4	1,183	52.5	△26	△2.2
カラー剤	36	1.7	24	1.1	△12	△33.5
その他	71	3.3	225	10.0	154	216.7
売上割戻金	△149	△7.0	△157	△7.0	△7	—
合計	2,184	100.0	2,253	100.0	69	3.2

(注) 1. ADJUVANT HONG KONG COMPANY LIMITED（連結子会社）、エクシードシステム株式会社（連結子会社）の売上高は、金額が僅少であるため、その他に含んでおります。

2. 第1四半期連結累計期間より、従来「その他」に区分しておりました「ボディシリーズ」を「スキンケア」に含めております。また、平成28年3月21日付でイノベーション・アカデミー株式会社を吸収合併したことに伴い、「その他」に区分しておりました同社の売上高を各区分に組み替えております。この結果、前第2四半期連結累計期間の売上区分の組み替えを行っております。

3. 売上割戻金は、商品ごとではなく売上高の合計を基準として割戻率を設定しているため、区分ごとに配賦せず合計額で表示しております。

国内海外別売上高は、次のとおりであります。

区分	前第2四半期連結累計期間		当第2四半期連結累計期間		増減額 金額（百万円）	増減率 （%）
	金額（百万円）	構成比（%）	金額（百万円）	構成比（%）		
国内売上高	2,040	93.4	2,116	93.9	76	3.8
海外売上高	144	6.6	136	6.1	△7	△5.2
合計	2,184	100.0	2,253	100.0	69	3.2

当社グループは、単一セグメントであるためセグメント別の記載はしていませんが、区分別売上高の概要は以下のとおりであります。

(スキンケア)

スキンケア商品の売上高は、AEクリアジェルの販売が好調に推移いたしました。非正規流通取引先との契約解除による売上減少を補うには至りませんでした。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は978百万円（前年同期比3.8%減）となりました。

(ヘアケア)

ヘアケア商品の売上高は、非正規流通取引先との契約解除に伴う影響により減少しており、当第2四半期連結累計期間の売上高は1,183百万円（前年同期比2.2%減）となりました。

(カラー剤)

カラー剤商品の売上高は、計画に対し進捗は鈍化しておりますが、専任担当者が全国のA・C・Sサロンに積極的な営業活動を行い、当社のカラー剤であるRe:VIVEナチュラルカラーの拡販に取り組んでおります。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は24百万円（前年同期比33.5%減）となりました。

(その他)

その他の区分には、当第2四半期連結累計期間より、エクシードシステム株式会社の売上高が含まれておりません。

なお、MAPシステム※4におきましては、当第2四半期連結会計期間末における契約件数が258件（前期末比7件減）となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は225百万円（前年同期比216.7%増）となりました。

※注1 「サロン」

美容室、理容室、エステティックサロンを指します。

※注2 「A・C・Sサロン」

初回に100千円以上の仕入を行い、当社グループが指導する商品の案内方法等を定めたA・C・S加盟規約を遵守することを確約したサロンを指します。

※注3 「非正規流通取引先」

カウンセリングを行わずインターネット等による販売を行うA・C・Sサロン、代理店を指します。

※注4 「MAPシステム」

サロンの顧客管理、経営分析のために提供しているクラウド型経営サポートシステムを指します。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比較して115百万円増加し、5,615百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末と比較して116百万円減少の3,763百万円となりました。主な変動要因は、現金及び預金の増加151百万円、受取手形及び売掛金の増加86百万円、商品及び製品の増加79百万円、コマーシャル・ペーパーの償還による有価証券の減少499百万円によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末と比較して231百万円増加の1,852百万円となりました。主な変動要因は、第1四半期連結累計期間にエクシードシステム株式会社を連結子会社にしたことに伴うのれんの増加89百万円によるものであります。

流動負債は、前連結会計年度末と比較して0百万円増加の645百万円となりました。主な変動要因は、1年内返済予定の長期借入金の増加45百万円、未払法人税等の減少64百万円によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末と比較して157百万円増加の571百万円となりました。主な変動要因は、長期借入金の増加120百万円によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末と比較して43百万円減少の4,398百万円となりました。主な変動要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益による増加217百万円、配当金の支払による減少189百万円、エクシードシステム株式会社を連結子会社にしたことに伴う自己株式の取得による減少45百万円によるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、営業活動により得られた資金を、エクシードシステム株式会社の株式の取得、配当金の支払等で使用した結果、前連結会計年度末に比べて478百万円減少し、当第2四半期連結会計期間末には1,989百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は、12百万円（前年同期に獲得した資金は225百万円）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益303百万円の計上、売上債権の減少額51百万円、仕入債務の減少額29百万円、たな卸資産の増加額80百万円及び法人税等の支払額184百万円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は166百万円（前年同期に獲得した資金は32百万円）となりました。これは主に、エクシードシステム株式会社の株式の取得による連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入44百万円、定期預金の払戻による収入208百万円、投資有価証券の取得による支出100百万円、定期預金の預入による支出313百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は272百万円（前年同期比80百万円増）となりました。これは主に、配当金の支払額190百万円によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は、76百万円であります。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数 (株)
普通株式	22,000,000
計	22,000,000

②【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数 (株) (平成28年9月20日)	提出日現在発行数 (株) (平成28年10月28日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	7,959,600	7,959,600	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数100株 (注)
計	7,959,600	7,959,600	—	—

(注) 1. 完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社の標準となる株式であります。

2. 「提出日現在発行数」欄には、平成28年10月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成28年6月21日～ 平成28年9月20日	—	7,959,600	—	757,176	—	717,107

(6) 【大株主の状況】

平成28年9月20日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
中村 豊	神戸市西区	1,228,800	15.43
田中 昌樹	神戸市西区	939,400	11.80
田中 順子	神戸市西区	600,000	7.53
株式会社T・Nソリューション	神戸市西区美賀多台3丁目4-5	600,000	7.53
株式会社ボンニー	神戸市西区榎野台6丁目10-4	600,000	7.53
日本マスタートラスト信託 銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	367,800	4.62
JPMCC CLIENT SAFEKEEPING ACCOUNT (常任代理人 シティバンク 銀行株式会社)	THREE CHASE METROTECH CENTER, BROOKLYN, NEW YORK 11245, U. S. A. (東京都新宿区新宿6丁目27番30号)	234,400	2.94
アジュバンコスメジャパン従業員 持株会	神戸市中央区下山手通5丁目5番5号	189,986	2.38
日本トラスティ・サービス信託銀 行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	124,800	1.56
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL (常任代理人 ゴールドマン・サ ックス証券株式会社)	133 FLEET STREET LONDON EC4A 2BB, UK (東京都港区六本木6丁目10番1号 六 本木ヒルズ森タワー)	114,300	1.43
計	—	4,999,486	62.81

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成28年9月20日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	(相互保有株式) 普通株式 50,000	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 7,908,300	79,083	(注)
単元未満株式	普通株式 1,300	—	—
発行済株式総数	7,959,600	—	—
総株主の議決権	—	79,083	—

(注) 完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社の標準となる株式であります。なお、1単元の株式数は、100株であります。

② 【自己株式等】

平成28年9月20日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合 (%)
(相互保有株式) エクシードシステム株式会社	岡山市北区今 3丁目24-34	50,000	—	50,000	0.62
計	—	50,000	—	50,000	0.62

2 【役員】の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成28年6月21日から平成28年9月20日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成28年3月21日から平成28年9月20日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月20日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,288,526	2,440,371
受取手形及び売掛金	445,962	532,373
有価証券	499,994	—
商品及び製品	467,656	546,742
原材料及び貯蔵品	18,419	27,474
その他	162,846	221,794
貸倒引当金	△3,644	△5,045
流動資産合計	3,879,761	3,763,711
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	770,490	770,918
その他	585,206	642,917
減価償却累計額	△373,757	△415,757
有形固定資産合計	981,938	998,078
無形固定資産		
のれん	—	89,866
その他	44,615	38,348
無形固定資産合計	44,615	128,214
投資その他の資産		
その他	600,082	733,866
貸倒引当金	△5,730	△7,964
投資その他の資産合計	594,351	725,901
固定資産合計	1,620,905	1,852,194
資産合計	5,500,667	5,615,905
負債の部		
流動負債		
買掛金	125,661	129,431
1年内返済予定の長期借入金	—	45,839
未払法人税等	147,731	82,949
賞与引当金	104,589	103,521
その他	267,071	284,107
流動負債合計	645,053	645,849
固定負債		
長期借入金	—	120,525
退職給付に係る負債	35,465	33,223
役員退職慰労引当金	341,000	350,660
資産除去債務	26,631	31,849
その他	11,043	35,347
固定負債合計	414,139	571,606
負債合計	1,059,192	1,217,455

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月20日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月20日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	757,176	757,176
資本剰余金	717,107	717,107
利益剰余金	2,970,524	2,997,719
自己株式	—	△45,550
株主資本合計	4,444,808	4,426,453
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△17,326	△23,528
為替換算調整勘定	13,992	△4,473
その他の包括利益累計額合計	△3,334	△28,002
純資産合計	4,441,474	4,398,450
負債純資産合計	5,500,667	5,615,905

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年3月21日 至平成27年9月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年3月21日 至平成28年9月20日)
売上高	2,184,585	2,253,836
売上原価	800,245	837,907
売上総利益	1,384,340	1,415,929
販売費及び一般管理費	※ 1,023,205	※ 1,135,737
営業利益	361,134	280,191
営業外収益		
受取利息	1,685	1,758
受取配当金	855	140
保険解約返戻金	42,384	—
受取補償金	21,542	—
雑収入	2,034	3,250
営業外収益合計	68,502	5,149
営業外費用		
支払利息	43	396
保険解約損	3,369	—
為替差損	930	9,010
雑損失	1	8
営業外費用合計	4,344	9,415
経常利益	425,292	275,926
特別利益		
投資有価証券売却益	1,431	22
段階取得に係る差益	—	27,442
特別利益合計	1,431	27,465
特別損失		
固定資産除却損	583	—
特別損失合計	583	—
税金等調整前四半期純利益	426,140	303,391
法人税、住民税及び事業税	176,420	94,368
法人税等調整額	△244	△8,002
法人税等合計	176,175	86,366
四半期純利益	249,964	217,025
親会社株主に帰属する四半期純利益	249,964	217,025

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成27年3月21日 至 平成27年9月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年3月21日 至 平成28年9月20日)
四半期純利益	249,964	217,025
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△9,004	△6,202
為替換算調整勘定	922	△18,466
その他の包括利益合計	△8,081	△24,668
四半期包括利益	241,882	192,356
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	241,882	192,356
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年3月21日 至平成27年9月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年3月21日 至平成28年9月20日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	426,140	303,391
減価償却費	35,588	36,891
のれん償却額	—	4,729
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△2,229	△960
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△1,960	△1,067
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	3,199	△2,241
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	3,499	9,660
受取利息及び受取配当金	△2,540	△1,899
支払利息	43	396
為替差損益 (△は益)	997	7,683
保険解約返戻金	△42,384	—
固定資産除却損	583	—
投資有価証券売却損益 (△は益)	△1,431	△22
段階取得に係る差損益 (△は益)	—	△27,442
売上債権の増減額 (△は増加)	146,626	51,443
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△53,390	△80,311
仕入債務の増減額 (△は減少)	38,423	△29,457
その他	△60,406	△100,644
小計	490,758	170,148
利息及び配当金の受取額	2,540	1,899
利息の支払額	△43	△396
法人税等の支払額	△267,933	△184,507
営業活動によるキャッシュ・フロー	225,322	△12,856
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△10,820	△6,898
無形固定資産の取得による支出	△5,949	△660
投資有価証券の取得による支出	△149,762	△100,192
投資有価証券の売却による収入	51,473	10,022
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	—	44,268
貸付けによる支出	—	△1,800
貸付金の回収による収入	—	42
定期預金の預入による支出	△224,030	△313,432
定期預金の払戻による収入	256,000	208,963
保険積立金の積立による支出	△10,753	△8,079
保険積立金の解約による収入	135,389	3,771
その他	△9,467	△2,618
投資活動によるキャッシュ・フロー	32,078	△166,614
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	350,000	300,000
短期借入金の返済による支出	△350,000	△300,000
長期借入金の返済による支出	—	△77,883
リース債務の返済による支出	△3,380	△4,678
配当金の支払額	△188,337	△190,121
財務活動によるキャッシュ・フロー	△191,717	△272,683
現金及び現金同等物に係る換算差額	△518	△26,394
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	65,164	△478,548
現金及び現金同等物の期首残高	2,094,601	2,467,868
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 2,159,766	※ 1,989,320

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

連結の範囲の重要な変更

当社の連結子会社であったイノベーション・アカデミー株式会社は、平成28年3月21日付で当社を存続会社とする吸収合併により消滅したため、第1四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しております。

また、平成28年6月1日付でエクシードシステム株式会社の株式を取得して、同社を子会社としたため、第1四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。

(会計方針の変更)

(企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、 「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更しております。また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更しております。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

当第2四半期連結累計期間の四半期連結キャッシュ・フロー計算書においては、連結範囲の変動を伴わない子会社株式の取得又は売却に係るキャッシュ・フローについては、「財務活動によるキャッシュ・フロー」の区分に記載し、連結範囲の変動を伴う子会社株式の取得関連費用もしくは連結範囲の変動を伴わない子会社株式の取得又は売却に関連して生じた費用に係るキャッシュ・フローは、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の区分に記載しております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

なお、当第2四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、当第2四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成27年3月21日 至 平成27年9月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年3月21日 至 平成28年9月20日)
給料及び手当	247,855千円	273,677千円
役員退職慰労引当金繰入額	8,499千円	9,660千円
賞与引当金繰入額	84,284千円	95,294千円
退職給付費用	3,134千円	2,492千円
研究開発費	42,607千円	76,213千円
減価償却費	34,391千円	30,915千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成27年3月21日 至 平成27年9月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年3月21日 至 平成28年9月20日)
現金及び預金勘定	2,456,418千円	2,440,371千円
預入期間が3か月を超える定期預金等	△296,651千円	△451,051千円
現金及び現金同等物	2,159,766千円	1,989,320千円

(株主資本等関係)

I 前第2四半期連結累計期間 (自 平成27年3月21日 至 平成27年9月20日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月17日 定時株主総会	普通株式	188,524	24	平成27年3月20日	平成27年6月18日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年3月21日 至 平成28年9月20日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月16日 定時株主総会	普通株式	191,030	24	平成28年3月20日	平成28年6月17日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間（自 平成27年3月21日 至 平成27年9月20日）

当社グループは、アジュバン化粧品の商品企画、研究開発、販売及びこれに附帯するサービス業務を営む単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

当第2四半期連結累計期間（自 平成28年3月21日 至 平成28年9月20日）

当社グループは、アジュバン化粧品の商品企画、研究開発、販売及びこれに附帯するサービス業務を営む単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成27年3月21日 至 平成27年9月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年3月21日 至 平成28年9月20日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	31.82円	27.35円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	249,964	217,025
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(千円)	249,964	217,025
普通株式の期中平均株式数(株)	7,855,200	7,934,328
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	31.44円	27.20円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額 (千円)	—	—
普通株式増加数(株)	95,057	43,603
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当 たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株 式で、前連結会計年度末から重要な変動があったも のの概要	—	—

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年10月28日

株式会社アジュバンコスメジャパン
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 山本 操司 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 大谷 智英 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社アジュバンコスメジャパンの平成28年3月21日から平成29年3月20日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成28年6月21日から平成28年9月20日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成28年3月21日から平成28年9月20日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社アジュバンコスメジャパン及び連結子会社の平成28年9月20日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成28年10月28日
【会社名】	株式会社アジュバンコスメジャパン
【英訳名】	ADJUVANT COSME JAPAN CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 松井 健二
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	神戸市中央区下山手通五丁目5番5号
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長松井健二は、当社の第28期第2四半期（自 平成28年6月21日 至 平成28年9月20日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

2 【特記事項】

特記すべき事項はありません。